

信頼されるODAのために過去の検証を*

川村暁雄（関西 NGO 協議会提言専門委員会委員）

ODA への市民の支援を得るためには、不信感の払拭が不可欠。そのためには、過去の検証とその反省を踏まえた改善が必要。

- ・過去の失敗を検証する姿勢を示し、前向きに活かしていくことこそ政権交代に期待されていることでは。
- ・財政状況への不安が高まる中で、さまざまな批判のある ODA だからこそ、こうした姿勢を示さないと人びとの支持を受けることができない。

狭い国益指向を排し、人類益のための ODA を掲げ、国際社会をリードしていくべき。

- ・国際社会で名誉ある地位を得るためには、人類益を前面に掲げた援助を実施し、国際社会をリードするべき。国益追求の競争を行うのではなく、より高いモラルを掲げた「競争」で世界を変えていくべき。
- ・狭い国益指向の ODA は、援助を歪め、負の影響をもたらしがち。常に途上国の人びとの利益が前提であることをはっきりすべき。さもないと ODA が問題を生みだし、批判を招く。

過去の ODA を開かれた形で検証し、1) 当面、負の影響をもたらさないようにすること、2) 検証を踏まえて、よりよい支援のための政策を作ることが求められる。

- ・負の影響をもたらす ODA 事業は、たとえ少数であっても影響を受けた人にとっては、全人生を台無しにしかねない。
- ・問題ある ODA 事業が起きれば、ODA 全体への信頼を簡単に失わせる。
- ・過去の問題を繰り返さないためにも、検証を行う必要がある。
- ・過去の教訓から、よりよい ODA 政策を生み出す PDCA サイクルを実践すべき。

ODA の検証や新たな政策形成は、地方での意見聴取を含めた公開の過程を経るべき

* 詳しくは、配布資料「ODA の信頼度を高めるために―過去に実施された ODA の問題点の検証を求める提言」を参照ください。